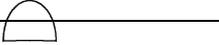


わらび

1 作型

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	(1年目)									(株養成)								
	(2年目) (株養成)																	
	(3年目以降)																	
	露地普通栽培																	
トンネル栽培																		

月	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	(1年目) (株養成)																	
	(2年目) (株養成)																	
	(3年目以降)																	
	露地普通栽培																	
トンネル栽培																		

:定植 :収穫  :トンネル

アピールポイント

- ・出荷時期: 3月上旬～7月上旬
- ・トンネル栽培では、収穫期が露地普通栽培より1ヶ月ほど早く、収穫期間も長いです。
- ・アマワラビは、アク抜きが必要がなく、料理が容易で、味は極めて良好です。



2 各作型のポイント

(1) 普通露地栽培

品種は、アマワラビ(あくなし)と在来系(大開系など)があります。アマワラビは、あく抜きが必要がないので、市場性は高いですが、あく有り系統にくらべ生育が遅いため成園となるまでに時間がかかります。

植え付けは、3月中下旬の春植えです。根茎は、300kg/10a必要となります。

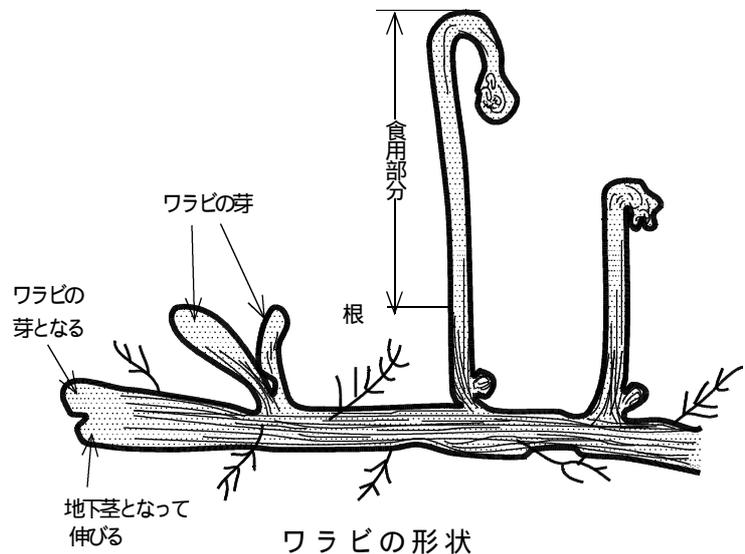
80cm~100cm間隔に、深さ15cm程度の植え溝を1列ずつ掘り、根茎が重なるように厚めに植え付けます。

肥料は、植え付け前に牛糞堆肥、化成肥料、緩効性被覆肥料等を全量基肥施用し、灌水をたっぷり行い覆土します。ワラビは、酸性土壌を好むので、石灰は施用しません。

1年目は、根株の養成期間とし、収穫はしません。4~7月の除草管理が重要です。除草を怠ると、その後の生育は極端に悪くなります。冬は残渣の茎葉を焼き払い、翌春の萌芽に備えます。これは毎年行います。

2年目以降は、萌芽前に緩効性肥料を前年と同量もしくはやや少なめに施用します。

収穫は植え付け2年目の春から可能です。収穫は、茎が30cm程度に伸びて、葉の開かない状態のものを地際から摘み取ります。収穫したものは、頭をそろえて、先端から25cmに切りそろえます。



(2) トンネル栽培

普通栽培のほ場の一部にトンネルを設置することにより、一ほ場で長期出荷が可能です。

品種は、普通露地栽培に準じます。基本的な管理は、露地栽培と変わりません。

2月上旬に、畑に十分灌水してほ場を湿らせてからビニールトンネル被覆を行います。密閉しておくと太陽熱によって、被覆開始1ヶ月後で萌芽を始めます。夜間は二重被覆等によって萌芽を早めますが、萌芽後は日中換気を行います。霜の心配のなくなる5月以降はビニールを除き、露地栽培とします。

